

環境経営レポート2020年度版

2020.05.01～2021.04.30

ver.1.1



発行日2021年6月10日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

目次

1. 会社概要・対象範囲	1	③ 廃棄物の排出量	12
2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり	2	④ 環境対応商品の売上高	13
3. 環境経営方針	3	6. グリーン購入について	14
4. 環境経営組織図	4	7. 環境啓発活動	15～16
5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧	5	8. 環境関連法規	17
①- a 電力使用量	6～8	9. 中期環境経営目標設定（2021年度～2023年度）	18
①- b ガソリン使用量	9	10. 代表者の総括	19
①- c CO2排出量	10		
② 水使用量	11		

1. 会社概要・対象範囲

■会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆従業員数 21名（就業役員を含む）
- ◆事業内容 文具・紙製品の製造卸、小売業、賃貸業
- ◆事業所
 - 本社・小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25
床面積：173.73㎡
 - 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
床面積：301.69㎡
- ◆環境管理責任者 小売事業部主任 佐竹英幸

◆事業規模

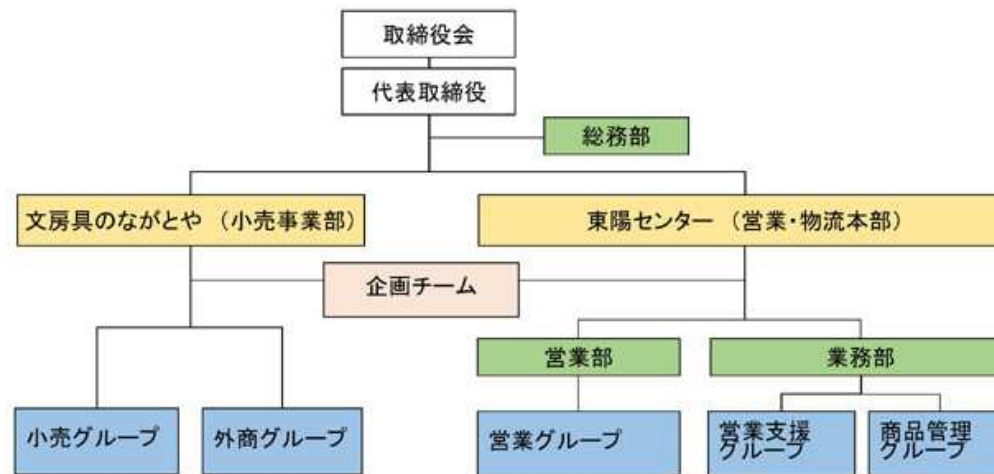
	2018年度	2019年度	2020年度
売上高(万円)	74,000	76,000	74,800

決算期末（6月）売上高

■対象範囲

- ①対象とする組織：全組織
- ②対象とする人員：全従業員
- ③対象とする事業活動：全事業活動

■組織図



◆主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり



目標4〔質の高い教育をみんなに〕

- 子どもたちへの教育環境・備品等の支援
(公財オイスカ こどもの森計画、WWF ソーラーライト
チャレンジ) →P13, 15, 16



目標14〔海の豊かさを守ろう〕

- サンゴ礁保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 海洋プラスチック問題への取組 (東京ベイ・クリーン
アップ大作戦) →P13, 15, 16



目標7〔エネルギーをみんなにそしてクリーンに〕

- クリーンエネルギー (太陽光発電) の利用
- 化石燃料に頼ったエネルギー使用を削減する
→P6, 7, 8, 9



目標15〔陸の豊かさも守ろう〕

- グリーン購入法適合品の積極的利用
- 希少動物保護支援 (WWF 南西諸島プロジェクト)
- 地球の緑化活動支援 (公財オイスカ こどもの森計画)
→P13, 14, 15, 16



目標12〔つくる責任つかう責任〕

- 廃棄物の分別・再利用を含めた削減
- 持続可能な製品の製造・販売に寄与する
→P12, 13



目標14〔パートナーシップで目標を達成しよう〕

- 公財オイスカ、WWFジャパンとのパートナーシップ
→P15, 16



目標13〔気候変動に具体的な対策を〕

- 地球温暖化対策としてCO2削減の取り組み
→P6, 7, 8, 9, 10



3. 環境経営方針

株式会社長門屋商店は、私たちの未来のため、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現と継続的な環境負荷の低減を推進します。

1. 事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、SDGsを見据えた社会的貢献を目指します。
2. 環境関連の法令・規則を遵守すると共に、ステークホルダーと協力的な関係を確立します。
3. 商品の製造から販売に至るまで『地球にやさしい』を追求し、環境負荷の低減に努め、以下を実施します。
 - a. 環境負荷の小さい主原料や副資材を積極的に調達し、製造・流通過程においても最大限の効率化を図ります。
 - b. 間接支援型環境商品の販売を通じて売上の一部を森林保護や海洋保全団体等の環境保護活動へ役立てます。
 - c. 小売事業においては、レジ袋削減をはじめとした『脱プラスチック』に取り組み、これを推進します。
4. 限りある資源の保全を目的に省エネ・省ゴミ活動を普遍的に継続し、企業価値及び文化的水準の向上へと繋がります。
5. 環境経営における目標・計画・実施状況については、全従業員に周知徹底すると共に、「環境経営レポート」として公表します。

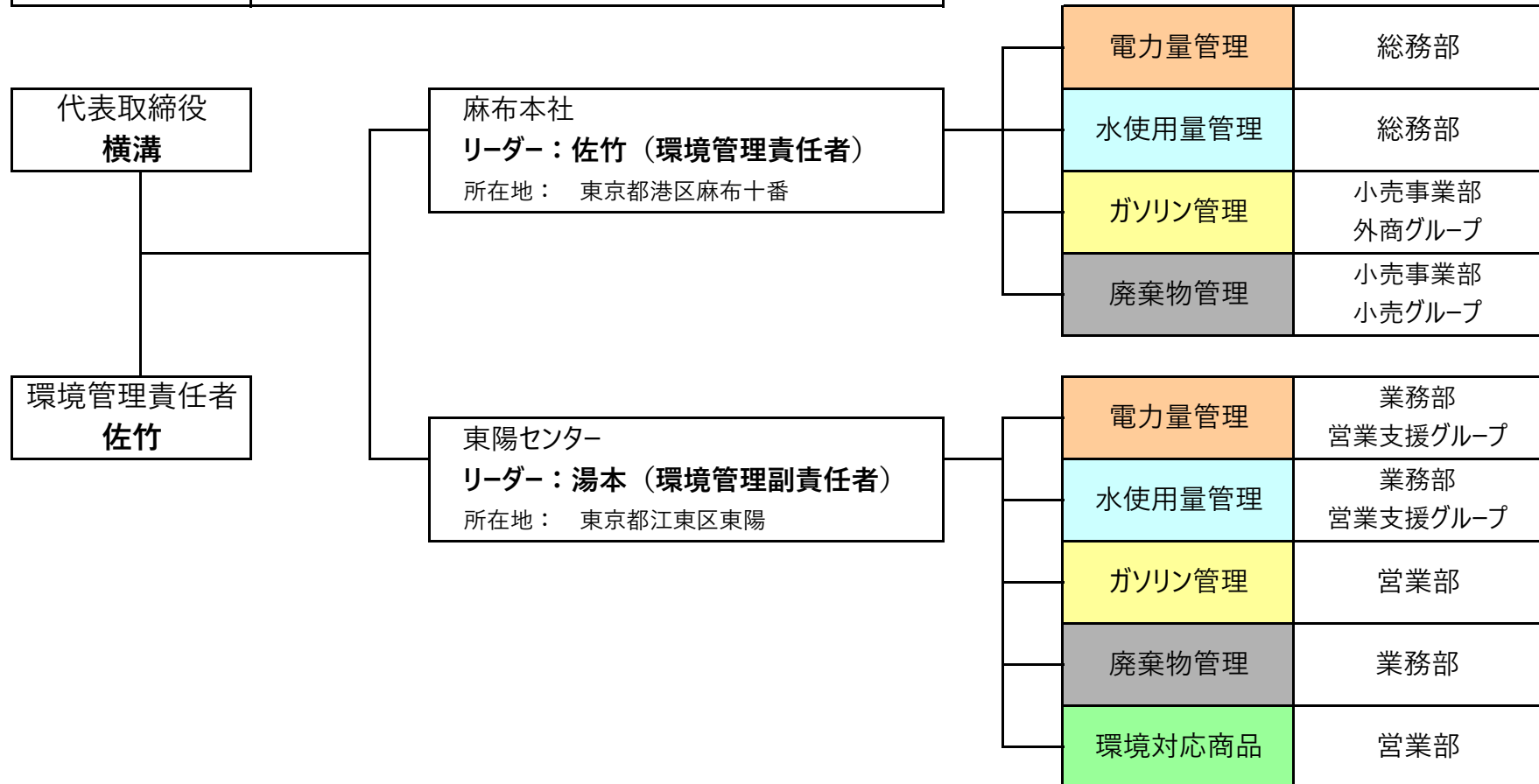
改訂：2018年5月1日
制定：2006年11月01日

株式会社 長門屋商店
代表取締役 横溝純一

4. 環境経営組織図

〔役割・責任・権限〕

代表取締役	環境経営方針の策定、環境管理責任者の指名、必要な資源を準備、目標値と実行計画の作成・是正指示
環境管理責任者	環境経営システムの維持、環境経営レポートの作成、各部署の運用状況の把握、定期ミーティングの開催
各部署担当	月次の数値の記録、定期ミーティングにおいて運用状況の報告



5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧

実施事項	2019年度実績	2020年度実績	2020年度目標	目標達成状況	
①- a 電力使用量	49,672kWh	49,679kWh 前年対比 +0.0%	49,200kWh (対2019年度-0.9%)	目標対比 +1.0%	△
①- b ガソリン使用量	5,061リットル	5,446リットル 前年対比 +7.6%	5,100リットル (対2019年度0.7%)	目標対比 +6.8%	×
①- c CO ₂ 排出量※	32,029kg-CO ₂	33,922kg-CO₂ 前年対比 +5.9%	31,478kg-CO₂ (対2019年度-1.7%)	目標対比 +7.8%	×
② 水使用量	165m ³	151m³ 前年対比 -8.5%	163m³ (対2019年度-1.2%)	目標対比 -7.4%	◎
③- a 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	433.0kg	472.3kg 前年対比 +9.1%	425.0kg (対2019年度-1.8%)	目標対比 +11.1%	×
③- b 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3675.0kg	3396.5kg 前年対比 -7.6%	3600.0kg (対2019年度-2%)	目標対比 -5.7%	◎
④ 環境対応商品の売上高	24,810万円	20,777万円 前年対比 -16.3%	25,300万円 (対2019年度1.9%)	目標対比 -17.9%	×

※CO₂排出量使用排出係数について、購入電力は0.000457 (東京電力エナジーパートナー) または0.000534 (楽天モバイル) [単位: t-CO₂/kWh]、ガソリンは2.32166 [単位: kg-CO₂/l]を使用

◎は設定目標達成 ○は設定目標に及ばずも前年実績より良化 △は前年実績並 ×は目標、前年実績ともクリアできず

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その1/実績一覧）

SDGs 該当項目 ⇒



本社ビル	2018年度	2019年度	2020年度
購入電力量(1)	30,247kWh	28,763kWh	28,325kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	1,723kWh	885kWh	814kWh
実質電力使用量(1)+(2)	31,970kWh	29,648kWh	29,139kWh
前年比		92.74%	98.28%

東陽センター	2018年度	2019年度	2020年度
購入電力量(1)	14,237kWh	13,792kWh	15,606kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	6,971kWh	6,232kWh	4,934kWh
実質電力使用量(1)+(2)	21,208kWh	20,024kWh	20,540kWh
前年比		94.42%	102.58%

全社合計	2018年度	2019年度	2020年度
購入電力量(1)	44,484kWh	42,555kWh	43,931kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	8,694kWh	7,117kWh	5,748kWh
実質電力使用量(1)+(2)	53,178kWh	49,672kWh	49,679kWh
前年比		93.41%	100.01%



前年対比 +0.01%

※太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

環境経営目標実施要項①-a 電力使用量（その2/取組内容）

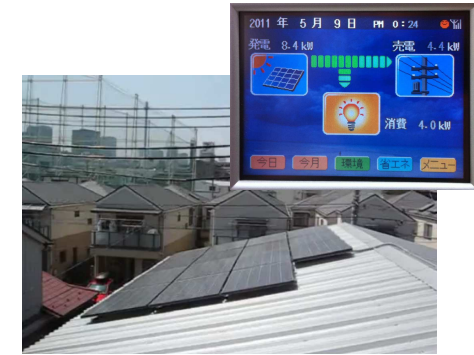
SDGs 該当項目 ⇒



↑ LED電球およびLED蛍光灯



本社 ソーラー設備 9.8kw
 今期の年間発電量：9053kWh
 2012年4月からの累計：93311kWh



東陽センター ソーラー設備 10kw
 今期の年間発電量：6914kWh
 2010年8月からの累計：120038kWh



↑ 温度管理へのさまざまな工夫

■新規取組

◆コロナ対策とも重なりますが、エアコン使用時期に窓を開放しエアコン使用をなるべく控えた結果、電力使用量の増加を抑えられました。

■継続取組

●エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等 ●事務所にすだれの設置 ●温度計を使用して室温管理 ●個別の消灯 ●OAタップによる待機電流OFF

●月次電力使用量（2020年5月～2021年4月）

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	年間
麻布本社	前年実績	2349	1725	1821	2398	2237	2108	2022	2115	3195	3508	3005	3165	29648
	当年実績	2251	1541	1615	2626	1931	2119	1942	1930	3167	3837	3335	2846	29140
東陽センター	前年実績	1200	1147	1711	2165	2255	1437	1075	1856	1767	2018	1782	1611	20024
	当年実績	993	1305	1622	2266	2438	1279	1122	1731	2047	2370	1885	1482	20540
合計	前年実績	3549	2872	3532	4563	4492	3545	3097	3971	4962	5526	4787	4776	49672
	当年実績	3244	2846	3237	4892	4369	3398	3064	3661	5214	6207	5220	4328	49680
	前年比	91.41%	99.09%	91.65%	107.21%	97.26%	95.85%	98.93%	92.19%	105.08%	112.32%	109.05%	90.62%	100.02%

(単位：kWh)



2018/5導入 新型LED照明(全9台)



2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン

■今年度の評価

〔本社ビル〕

前年比1.7%の減となりました。コロナ禍ではありますが、温暖な時期には窓を開放しエアコンの使用をなるべく控えた結果、電力使用量の増加を避けられました。今後もできる工夫を続けて参ります。

〔東陽センター〕

前年比2.58%の増加となりました。空調時にこまめな換気を行う「新しい生活様式」の実践により、電力使用の多くを占める空調使用時の電力増の影響は避けられませんでした。エアコンフィルターのこまめな清掃や、照明器具の定期的な点検を行い、少しでもエネルギー負担の少ない運用を心がけて参ります。

■次年度へ

今年度は昨年度大きく影響のあった営業時間の短縮が限定的となり、「新しい生活様式」の実践による増加分との相殺でトータルでは前年同程度でした。今後の取り組みとしては、電気機器の定期的なメンテナンスを行いエネルギー負担の減少を目指すとともに、使用していない場所の照明を落とす、定時以降人数の少ない状況では使用範囲を限定するなど、できることを積み重ねて削減努力を行って参ります。

環境経営目標実施要項①- b ガソリン使用量

SDGs 該当項目 ⇒



出発前の車両



低燃費運転の心がけを車両内に表示



発送前商品

⇒ 運送会社の発送を積極的に活用

	2018年度	2019年度	2020年度
ガソリン使用量	5,062L	5,061L	5,446L
前年比		99.98%	107.61%

前年対比 +7.6%

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2018年度	2019年度	2020年度
全車合計走行距離	56840km	55911km	60869km
前年比		98.37%	108.87%
一台あたり燃費	11.22km/L	11.04km/L	11.17km/L
前年比		98.40%	101.18%

■ 継続取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
 - ①アクセルワーク51%以下②アイドリングストップ
 - ③エアコンは控え目④タイヤの空気圧チェック
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■ 評価・次年度へ

営業体制強化の一環として自社営業配達エリアを拡大したことに伴い、走行距離が8.8%増えたため使用量は昨年比7.6%増えました。

引き続き運送会社への発送にシフトさせる取組も行っており、次年度以降引き続き低燃費運転を心がけるよう、進めて参ります。

環境経営目標実施要項①-c Co2排出量

SDGs 該当項目 ⇒



CO2排出係数		2020年度使用数値
購入電力	東京電力エナジーパートナー使用分	0.000457 t-CO2/kWh
	楽天モバイル使用分 (東陽センター-2019年10月分より)	0.000534 t-CO2/kWh
ガソリン	EA21ガイドライン	2.32166 kg-CO2/l

※2020年度の購入電力の係数は2021年1月7日公表値の実排出係数に拠ります。

全社合計		2018年度	2019年度	2020年度
本社ビル	排出CO2	14,367kg-CO2	13,461kg-CO2	12,944kg-CO2
	購入電力 購入量	30,247kWh	28,763kWh	28,325kWh
東陽センター	排出CO2	6,763kg-CO2	6,818kg-CO2	8,334kg-CO2
	購入電力 購入量	14,237kWh	13,792kWh	15,606kWh
全社ガソリン	排出CO2	11,752kg-CO2	11,750kg-CO2	12,644kg-CO2
	使用量 使用量	5,062L	5,061L	5,446L
排出CO2総量		32,882kg-CO2	32,029kg-CO2	33,922kg-CO2
前年比			97.41%	105.91%

【参考】

	2018年度	2019年度	2020年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	44.44 kg-CO2/万円	42.14 kg-CO2/万円	45.35 kg-CO2/万円
前年比		94.84%	107.61%

オフセット計算	2020年度
本社ビル 総発電量	9,375kWh
東陽センター 総発電量	10,158kWh
発電量合計	19,533kWh

購入電力での排出量 ⇒ 9,708kg-CO2 相当

※計測端末の値を引用

購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 24,214kg-CO2

※なお、昨年のオフセット後の排出量は 22,888kg-CO2でした。
(前年比約5.8%増)

前年対比 5.91%

環境経営目標実施要項② 水使用量



本社ビル	2018年度	2019年度	2020年度
上下水道使用量	42m ³	51m ³	47m³
前年比		121.43%	92.16%

東陽センター	2018年度	2019年度	2020年度
上下水道使用量	169m ³	114m ³	104m³
前年比		67.46%	91.23%

全社合計	2018年度	2019年度	2020年度
上下水道使用量	211m ³	165m ³	151m³
前年比		78.20%	91.52%

■継続取組

- 雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使用しています。
- 節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕

前年度は清掃担当者さんが変わり使用量が大幅に増加してしまいましたが、今年後は協力いただいて使用量を抑えられました。引き続き協力をお願いするとともに個々の節水意識を高め使用量の削減につなげたい。

〔東陽センター〕

業務時間の変動、人員の増減により水の使用量に影響がありました。洗車用の貯水を止め水道水を用いたり、今後人員が増える予定もありますので、次年度もより一層の意識をもって節水に取り組みます。

前年対比 -8.5%

環境経営目標実施要項③ 廃棄物の排出量

SDGs 該当項目 ⇒



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 3種の分別ゴミ箱を用意しています。

③- a 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)

熱回収/埋立	2018年度	2019年度	2020年度
本社ビル	36.3kg	28.3kg	16.2kg
東陽センター	461.3kg	404.7kg	456.1kg
合計	497.6kg	433.0kg	472.3kg
前年比		87.02%	109.08%

前年対比 **+11.1%**

③- b プラ・古紙・ダンボール (再生)

再生	2018年度	2019年度	2020年度
本社ビル	897.7kg	549.3kg	522.7kg
東陽センター	3192.2kg	3125.7kg	2873.8kg
合計	4089.9kg	3675.0kg	3396.5kg
前年比		89.86%	92.42%

前年対比 **-5.7%**

■ 継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用
- ダンボールの再利用
- 古紙やプラの分別回収
- ペーパーレスの促進
- ペットボトルとキャップの分別収集

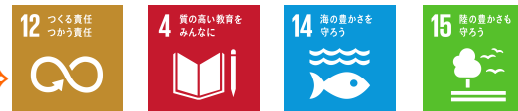
■ 評価・次年度へ

〔本社ビル〕
熱回収については、分別の継続した取組みにより約42%の大幅減を達成できました。再生分についても継続した取組により、約5%削減できました。

〔東陽センター〕
熱回収については昨年比約13%の増加となりましたが、昨年はまとまった廃棄がなく大幅に少なかったため実質例年並み程度でした。再生についてはダンボールの再利用を継続している効果もあり、昨年比約8%減を達成できました。引き続きの取組みを進めて参ります。

環境経営目標実施要項④ 環境対応商品の売上高

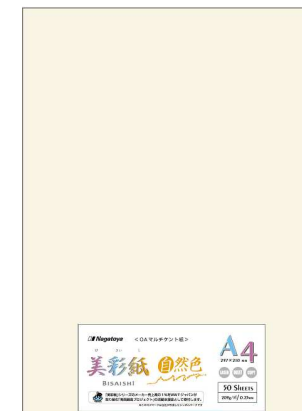
SDGs 該当項目⇒



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙「ホワイトペーパー-R」シリーズ



売上の一部をWWFジャパンの南西諸島保全へ寄付している「美彩紙」シリーズ

- 対象商品 (下記いずれが含まれているもの)
- ①売上の一部を環境保全団体に寄付している。
 - ②原料に廃材や再生材を使用している。
 - ③非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ
 在宅勤務や休業などにより印刷需要が減り、それに伴い売上高も減少しました。期首に比べ期末へ向けて若干の回復傾向にはなりましたが、トータルでは16%強の落ち込みとなりました。次年度は業務部と営業部が担当になりますので、環境対応商品の販売傾向などを精査しつつ、実施している環境活動の再度アピールや、キャンペーンの実施など計画していきます。

	2018年度	2019年度	2020年度
環境対応商品	27,438万円	24,810万円	20,777万円
前年比		90.42%	83.74%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 -16.26%

6. グリーン購入について

SDGs 該当項目 ⇒



♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりませんが、以下の通り意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

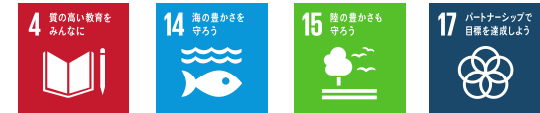
■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



7. 環境啓発活動 (1)

SDGs 該当項目 ⇒



－WWF「ソーラーライトチャレンジ」－

環境に配慮した特製ソーラーライトキットを組み立て、安定した明かりのない状況にある世界の子供たちに届ける、「ソーラーライトチャレンジ」プログラムに参加しました。



－WWF「南西諸島プロジェクト」支援－

WWFジャパンが進める「南西諸島プロジェクト」（南西諸島エコリージョン）は、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島の生態系保全を目的とした取り組みです。以前取り組んでいたWWF「しらほサンゴ村」支援に引き続き、「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。

(2020年度実績：340,367円)

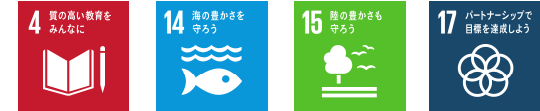


特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



環境啓発活動 (2)

SDGs 該当項目 ⇒



－オイスカ「子供の森」計画支援－

公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画は、こどもたち自身が学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという森づくり運動です。寄付金の一部は学用品や学校施設への教育支援としても使われます。弊社カラーペーパーシリーズの売上の一部をこの計画に寄付しております。
(2020年度実績：357,386円)



－東京ベイ・クリーンアップ大作戦－

「東京港を泳げる海に！ハダシで歩ける砂浜に！」をスローガンに毎年3回、地球環境の保全と泳げる海をめざして、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団（Kissポート財団）が主催する東京都お台場海浜公園で行う清掃活動に、レジ袋廃止に伴う手提げ紙袋の売上を協賛金の形で支援しました。

8. 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策(アイドリングストップ) 	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理 	○	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水銀を含む廃棄物に関しての対応 	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業系一般廃棄物に関して 	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業者の責務・減量義務等 	○	遵守
江東区環境基本条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第7条(事業者の責務)ほか 	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務 	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障子紙が該当 	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常使用の範囲 	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査 	○	遵守
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自賠責・納税・走行ルール 	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ リース会社・販売会社に委託 	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
小型家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用済みの事業系パソコンの排出 	○	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設置のパッケージエアコン等の簡易点検 	○	遵守

2021年6月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。
関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

9. 中期環境経営目標設定（2021年度～2023年度）

実施事項	2020年度実績	2021年度目標	3か年での中期目標
①- a 電力使用量	49,679kWh	49,200kWh 前年対比 -1.0%	2022年度 48,700kWh (対2020年度-1.9%) 2023年度 48,200kWh (対2020年度-2.9%)
①- b ガソリン使用量	5,446リットル	5,390リットル 前年対比 -1.0%	2022年度 5,330リットル (対2020年度-2.1%) 2023年度 5,270リットル (対2020年度-3.2%)
①- c CO ₂ 排出量 (※)	33,922kg-CO ₂	33,550kg-CO₂ 前年対比 -1.1%	2022年度 33,200kg-CO₂ (対2020年度-2.1%) 2023年度 32,900kg-CO₂ (対2020年度-3%)
② 水使用量	151m ³	150m³ 前年対比 -0.7%	2022年度 149m³ (対2020年度-1.3%) 2023年度 148m³ (対2020年度-1.9%)
③- a 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	472.3kg	465.0kg 前年対比 -1.5%	2022年度 458.0kg (対2020年度-3%) 2023年度 451.0kg (対2020年度-4.5%)
③- b 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3396.5kg	3350.0kg 前年対比 -1.4%	2022年度 3300.0kg (対2020年度-2.8%) 2023年度 3250.0kg (対2020年度-4.3%)
④ 環境対応商品売上高	20,777万円	21,100万円 前年対比 +1.6%	2022年度 21,500万円 (対2020年度+3.4%) 2023年度 21,900万円 (対2020年度+5.4%)
⑤ 従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※CO₂排出量使用排出係数について、購入電力は0.000457（東京電力エナジーパートナー）または0.000534（楽天モバイル）〔単位：t-CO₂/kWh〕、ガソリンは2.32166〔単位：kg-CO₂/l〕を使用

10. 代表者の総括

■代表者による総括と改善指示

【当該年度の総括】

新型コロナウイルス感染症拡大が長期化する中で、度重なる緊急事態宣言の影響により今期の売上は、昨対▲5%程度（微減）の進捗状況で推移しております。

大変厳しい経営環境下ですが組織の再編に取り組み、営業体制の強化を図って参りました。9月に営業車両を1台買替え、自社営業配達エリアを拡大しました。その結果、環境経営目標としている「Co2排出量削減」に影響が生じました。当然のことながら「ガソリン使用量」が増加し、設定した初期目標に及ばない数値となっております。

企業がテレワークを実施しオフィスワーカーが激減したことを受け、営業所に近い都心部の得意先が休業を余儀なくされる一方、郊外域の得意先においては客足が増え、弊社のアプローチもより広域へとシフトした事がガソリン使用量の増化に直結したものと考えられます。

「電力使用量」については昨年と比較してほぼ横ばいの結果となりました。若干増加傾向を示した要因は、夏・冬期のエアコン稼働時において換気頻度が増加したことによるものと推察しています。

コロナ禍、働く社員たちも多くストレスを抱え、節電意識にもいくらか低下傾向を感じる為、エコミーティングを通じて意識の再確認を働きかけました。

また東陽センターに設置している太陽光発電システムのパワーコンディショナー1台に故障が生じています。早急に改修工事を行う予定です。

「環境対応商品の売上高アップ」の項目においては、今年度も達成が厳しい状況が続いています。環境対応商品の多くは、OA用紙類です。コロナ禍、国内のペーパーレス化が加速し、オフィスで使われるプリンター用紙の需要が激減しております。今後はOA用紙以外の新たなカテゴリにおける環境対応商品の開発が課題となります。

【次年度の見直しや改善指示】

「環境経営方針」「環境経営活動計画」「環境経営」については、次年度も変更なく継続して参ります。

2021年6月10日
代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>